

目次

新県計画シリーズ (2)

□ 高速交通時代めざして

- ★高速交通網の整備……………8
- ★幹線交通網の整備……………10
- ★港湾の建設整備……………12
- ★情報ネットワークの形成……………15

□ 魅力ある九州の中核都市へ

- ★開発の基本方向……………26
- ★都市域交通通信体系の整備……………27
- ★中核管理機能の拡充整備……………29
- ★魅力ある中核管理都市の形成……………31

□ ここに人あり □

ある民芸資料館・山根 敏明さん ……25

□ 県政なんでも相談 □

1. 雇用促進融資制度とは……………33
2. 三歳児の健康診査……………34

かいせつ

★ ことしの県の台所 (その2)

地域開発と県民福祉の向上へ……………35

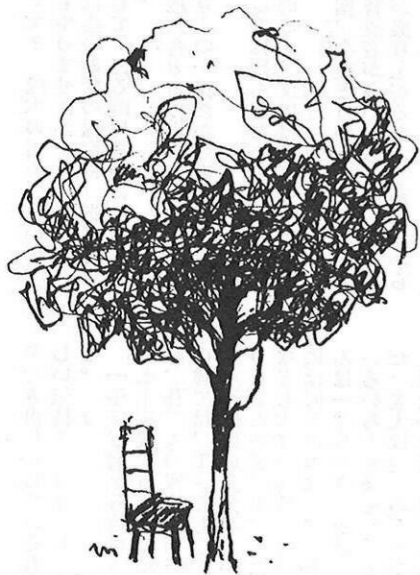
★ 随想ページ

佐藤昌一郎 ・ 四宮朝子 ・ 高千穂正史

★ グラビヤページ ★

★ センターカラー……………熊本市の納涼花火

★ 表紙……………熊本城宇土櫓



▶研修日程の打合せや注意事項の伝達なども、彼女の仕事のひとつだ。

▼体育館でのレクリエーション指導。



▲休憩時間の談話室。若い人たちと話し合う楽しいひととき。

▶高原の澄んだ空気の下でフォークダンス。歌声と明るい笑顔が交差する。



青春の賛歌

国立阿蘇青年の家
竹原ユウコさん

根子岳が近くに見える。前夜の雨に洗われて、阿蘇高原の緑がひととき鮮やかだ。そこでは、初恋によるしくの歌声に乗って、フォークダンスが始まっていた。阿蘇郡一の宮町にある国立阿蘇青年の家の研修の一コマだ。

指導しているのは竹原ユウコさん(22)。四十三年、熊本短大を卒業後、青年の家に勤務。研修申込みの受付、文書の発送と、ときばきとたづねていく彼女だが、なんといっても彼女が生きてくるとして、レクリエーションの指導員として、研修生たちの中にまじって動きまわっている時だ。

歌からダンスへ、ある時はゲーム遊びへと、ユーモアたっぷりに変化をもたせて、レクリエーションの楽しさの中へ、引き入れていく指導ぶりは堂に入ったもの。グループの中には絶えず笑い声が渦巻いて、なんとも楽しそう。「初めて指導した時は、心臓がドキドキして気分が悪くなるみただった」頃から二年。日常の指導の積み重ね、あるいは研修会での勉強の成果は、確かな形で実を結びつつあるようだ。

青年の家には、全国各地から、いろいろなグループが研修に訪れる。だから、これらのグループから学ぶことも多い。いっしょに生活する時間は短いのだが、レクリエーションを通じた楽しい雰囲気の中から、心の交流も生まれていく。時折、彼女が希望したとおり、青年団の歌やグループの歌を作ったといって送ってくる。それを見るのが彼女の一番の喜びだという。

「できるだけこの仕事を続けたい。色白のほほを染めて意欲をみせる彼女の顔には、好きな仕事に青春を打ち込む幸せと喜びが溢れていた。」